

会 議 録

| | | | |
|--------------------|--|---|---|
| 会議の名称 | 平成25年度 第2回豊中市市有施設有効活用委員会 | | |
| 開催日時 | 平成25年(2013年)9月9日(月) 14時~16時 | | |
| 開催場所 | 豊中市役所第二庁舎 3階 南会議室 | 公開の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可 |
| 事務局 | 資産活用部 施設活用推進室 | 傍聴者数 | 2人 |
| 公開しなかった理由 | | | |
| 出席者 | 委員 | ○市有施設有効活用委員会委員5名 伊丹康二委員、佐野こずえ委員、新藤晴臣委員、廣瀬史朗委員、吉野忠男委員 (五十音順) | |
| | 事務局 | ○資産活用部 施設活用推進室 甫立次長、國司主幹、宿院主査、次郎坊 ○財務部 財政室 直川理事 | |
| | その他 | 読書振興課、保育幼稚園室 | |
| 議題 | <p>1. 個別事案を踏まえた市有施設の有効活用について</p> <p>2. その他</p> | | |
| 審議等の概要 (主な発言要旨) | 別紙のとおり | | |

審議等の概要（主な発言要旨）

案 件 1

個別事案を踏まえた市有施設の有効活用について

- ・資料 1 特定事業の取組み状況について（保育所・幼稚園）
- ・資料 2 平成 25 年度中学校区ごとの市立保育園・幼稚園の配置の現状
- ・参考資料 1 各施設の配置マップ
- ・参考資料 2 平成 24 年豊中市統計書（抜粋）
- ・参考資料 3 平成 21-23 年度豊中市立図書館評価システム自己点検報告書
- ・参考資料 4 他市事例
- ・【当日資料】 図書館がめざすライフステージに合わせた学びの循環
豊中市立図書館 連携と協働ネットワーク図
中核市の図書館サービス指標比較
豊中市立図書館業務構造図
中学校区別 待機児童数推移

事務局より資料説明

(委員長) 資料について意見は。

(委員) 参考資料 4 にある「武蔵野プレイス」は開館して 1 年なのでまだ評価する段階ではないが、最近の研究で 5 か月経過した時点で、利用形態を調査した研究によると、図書館利用者は図書館だけ、生涯学習利用者は生涯学習だけという目的以外のところには行っていないことが分かっている。

(委員長) 施設自体が提案した内容を、市民がまだ受け入れられない感じ。

(委員) 公共施設では目的の施設に直接アクセスできることも重要なので、目的外施設に立ち寄らないことは仕方がないとも言える。

(委員長) スーパーやデパートのようにいろんなところを通らせる作りにはできない。

参考資料 4 にある「武蔵野プレイス」の資料で、利用人数等のデータも入っていればより検討しやすいのでは。

読書振興課より図書館の現状と進捗の説明

- ・当日資料 図書館がめざすライフステージに合わせた学びの循環
豊中市立図書館 連携と協働ネットワーク図
中核市の図書館サービス指標比較
豊中市立図書館業務構造図

(委員) 当日資料のネットワーク図では、私立幼稚園に対して、ソフト面としての絵本講座とハード面としての団体貸出がある。ソフト面とハード面が混在した資料になっている。小学校で図書館の本を検索できるということは逆に本来置くべき小学校にないということにならないか。

(読書振興課) 学校にはそれぞれ蔵書があり、ほかの学校に借りるとき、以前はファック

スを使い手作業でしていたが、インターネットを通じてウェブ検索できるようになった。

(委員) 私立幼稚園の絵本講座はソフト面での連携である。ハード面で連携を取っているケースはあるのか。

(読書振興課) 支援学校や保育園等に、動く図書館の乗り入れを行っている。

(読書振興課) また小学校、幼稚園、保育園の要望に応じて貸出をしている。本の提供は内容の相談をともなうため、ソフト面であると認識している。

(委員) 各図書館の担当学校数の違いは規模と関連しているのか？

(読書振興課) エリアで担当学校を決めている。学校数の違いは、中学校区により小学校の数が異なるからである。ボーダーラインにある学校は、大きな図書館が担当している。

(委員) 図書館に大小があるが、まず地域館として大きな館を作って、付随する形で分館を作ったのか。

(読書振興課) 何十年も前に、図書館協議会などで図書館配置計画が決められていた。

まず、市域を4つに分け、岡町、庄内、千里、野畑を作り、サービスの薄い地域に分館を作り整備してきた。

(委員) 庄内図書館と庄内幸町図書館が近い位置にあるが、何か意図はあるのか。

(読書振興課) 1つの地域館に、分館と分室を1つずつもつというネットワークを構成しようとしていたが、9館ができたところで、市の財政等の関係でストップした。庄内幸町図書館は4階建だが敷地が非常に狭く、フルサービスを提供するのは無理であるので、一部、学校に対する支援ライブラリーの機能を担っている。

(委員長) 図書館配置計画書の資料を提出してほしい。また9館で充足していると考えているのか。

(読書振興課) 動く図書館で空白の部分を補完している。

(読書振興課) 施設配置という部分では近隣市町村の図書館との相互広域利用サービスとして、吹田市の図書館4館と豊中市図書館4館が市境に住む市民の利便性向上に貢献している。箕面市についても自治体間連携の発展形式として、北摂3市2町(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)の広域利用サービスになっている。今後は西部についても充実させたい。

(委員長) この資料の中に、動く図書館の数は入っているのか。

(読書振興課) 動く図書館は岡町図書館の数値に入っている。

(委員長) 動く図書館分が入っていると、見方を変えなければいけない。動く図書館の貸出冊数などの資料はあるのか。

(読書振興課) 豊中市図書館活動という資料の中に掲載されている。

(委員長) あとで資料を提出してほしい。また、近隣市町村の相互広域利用サービス分の取り扱いは。

(読書振興課) 近隣市町村分も入っている。

(委員長) 豊中市民以外の方が借りた冊数が入っており、豊中市民が他市で借りた数は入っていないということなのか。

(読書振興課) その通りである。ちなみに他市市民が、豊中市の図書館で3万冊。豊中市

民は吹田市で1万1千冊借りている。

(委員長) 1冊あたりの貸出コストは。

(読書振興課) 23年度は293円。図書館費全体を貸出冊数で割った数である。

(委員) 市民一人当たりの図書館費が2,631円になっているが、費用の内訳が知りたい。

(読書振興課) 概算で図書館経費が10億3,000万円、人件費が6億8,000万円

(委員) 人件費が7割弱を占めている中で、読み聞かせなどサービスについて、コストを上げてサービスを向上させるのか、サービスカットをしてコストを下げるのか。どちらの方針で行くのか。

(読書振興課) ICTを活用すれば、無断持ち出しの防止、自動貸出や返却により人件費の削減や再配置などができるので、人件費を削減しつつ、サービスも向上させられると考えている。

(委員) 平日は主婦やリタイア組は利用しやすいが、会社員は利用しにくい。しかし、岡町、千里、蛍池は駅前で通勤に便利なので会社員も利用できる。青年期へのアプローチはどのようにしているのか。

(読書振興課) 千里図書館は8時まで開館しており、祝日開館を既に現在実施している。青年期には、その世代に必要な資料をそろえたり、入学案内を取り寄せたりしており、さらに図書館機能だけではなく、連携してやっていければと考えている。

(委員) 図書館によって、目的の設定はあるのか。

(読書振興課) 千里図書館は事業所が多いのでビジネス就労支援コーナーを設けており、岡町図書館では高齢者が多いので医療健康情報サービスや行政支援サービスの窓口を設けている。また、野畑図書館では子育てやDV予防、庄内図書館では多文化共生を課題としており、それぞれ地域課題に合わせている。

(委員長) 図書館ごとの機能割合を表示されたものはあるのか。

(読書振興課) 当日資料の豊中市立図書館業務構造図にある。

(委員長) これはメニューであり、これらがどれくらいのウエイトを占めていてボリュームがどうなっているのかわからないので、再考する資料にならない。それぞれの機能をもってしまふとこのようになってしまふ。4つの大きな図書館がポイントになっているのはわかる。しかし、9館が適正かどうかは当初の計画との照合が必要である。9館でよいのかという議論もできる。

(読書振興課) 今後もコスト意識をもって取り組んでいくつもりである。

こども未来部保育幼稚園室より説明

資料1 特定事業の取り組み状況について(保育所・幼稚園)

資料2 平成25年度 中学校区ごとの市立保育所・幼稚園の配置状況

【当日資料】 中学校区別 待機児童数推移

(委員長) この件について意見、質問はありますか。

(委員) 待機児童の年齢は。

(保育幼稚園室) 0, 1, 2才がほとんどである。

(委員) 待機児童のいない地域は。

(保育幼稚園室) 待機児童のいる地域から空いている保育所に通っているの、0, 1, 2才

児のあきはない。

(委員) 施設の面で幼稚園は共通しており、保育所はばらつきがあるようにみえたのだが、幼稚園には基準があるのか。

(保育幼稚園室) 幼稚園は1学級あたりの広さの基準がある。保育所では、年齢に応じて一人あたりの広さに基準がある。

(委員) 別の目的で建てられた施設を保育所に見直せる可能性はあるのか。

(保育幼稚園室) 以前に市立幼稚園を廃止した際に、民間保育所に転用したことがあるので、可能である。

(委員長) 北摂地域では人口は減っているが、待機児童は増えているという実態がある。所管部局ではこの対応を、人口予測に合わせていくのか、子育て世代を拡充していくのか、どう考えているのか。

(保育幼稚園室) 予測は難しいが、仮に人口が減っても0,1,2才の保育需要は増えていくと思うので、施設整備は必要。しかし人口が減ってきたときの対応を考えておかなければいけない。

(委員長) 所管部局は能動的に子育て世代を積極的に受け入れる考えなのか、人口減少なので施設見直しの考えなのか。私自身は子育て世代に評価されているということなので、積極的に受け入れていって欲しい。

(保育幼稚園室) 担当者としては能動的に考えていきたいが、結果が出ているのか把握しにくい。職員は一生懸命だが、伸びに影響しているのかわからない。

(委員) 転勤族には、豊中は教育熱心であるという情報が浸透しているので、それを強みとして充実させたほうがよいのでは。ただ、人口減少は確実なので、フレキシブルな対応は必要。

委員による意見交換

(委員) 図書館と幼稚園・保育園はミッションが違うので、分けて考えなくてはいけないのでは。

(委員長) 先にハード面から考えると紋切型になってしまう。ソフト面から考えて、それに見合うハード合わせていけば良いのではないかと。

(委員) 図書館のコアとなるミッションと、付加的に行うミッションがあり、コストを上げるためには付加的なミッションを圧縮していかなければならない中で、どう配置ややり方を考えていくのか。

(委員長) 市民のニーズを満たしていくというならば、図書館として動く方向は決まっている。それに合わせて動くことは実は非常に大きなコストがかかっている。

(委員) 読書振興課は本の提供はソフトだという説明があったが、図書館にある蔵書と、小学校にある蔵書のデータベースに互換性があるのだから、空間をシェア、役割分担されているとも言える。電子技術が発達していけば、図書は一元管理されるが、配架の場所は図書館に限らなくてもよくなる。先日見学してきた幼稚園や保育園には絵本コーナーはあるが、蔵書が少なくあまり利用されていない印象がある。幼稚園や子育て支援センターを地域の子育ての核にしていこうとするならば、図書館がやろうとしているブックスタート事業や本に関することは幼稚園などに任せればい

いと思う。本は図書館と囲い込まずに、たとえば、小さな子どもを持つ市民なら小地域で生活しているので、ライフスタイルを考えるならブックスタート事業は幼稚園で場所を確保した方がいいのではないかと思う。一方、読書振興課に同じような施設が他にもあるかとの問いにはないという返答で、共有していける施設はないとのことだった。

図書館の役割「くらしの課題解決」のなかで岡町図書館に「医療・健康情報」に関する書籍を数百万の予算をかけて整備したと聞いた。専門書を集めた図書館は、駅前の便利な場所にある岡町図書館でなくても良いと思う。ある分野に特化した専門館を作ると、その分野を調べたい人は、遠くても来るのではないか。図書館を専門館にしていってもいいのではないか。このような機能の再編を行うことがハード面の再編につながると思う。

(委員) 図書館に特色があるのは大事だと思う。家から徒歩 15 分以内にこだわるのは今の時代に合わない。それにこだわるならば、幼稚園、保育園で図書を借りられればいいと思う。

(委員) 子連れで本を借りたいときは、図書館へ行くより、幼稚園、保育所で借りられたほうが便利であると思う。おそらく、ビジネスマンは駅近で、夜まで開いている図書館に行くのではないか。データによると図書館の利用目的は本の貸出、返却が 81%を占めている。状況に合わせて最適配置できればよい。

(委員長) 図書館ですべての機能を網羅的にやっている。幼年期の子育て支援情報は、幼稚園、保育園でやってもらえればいいのか。本来の図書館機能を精査すればメニューは少なくなるのでは。図書館にいろんなものを詰め込みすぎている。ソフト面を整備していく必要がある。

(委員) 図書館に来館する目的を絞り込めばかえってはっきりするのではないか。メインのメニューでないものは省いたほうが効果があるのでは。

案 件 2

その他

特になし

以 上